

縄文時代の住居跡

— 竹田遺跡発掘調査40年 —

昭和四十七年（一九七二）、現在の鏡野中学校と大規模農道の建設工事中に弥生時代の土器や、遺構（生活の跡）が発見されたことをきっかけに、町教育委員会は町内外の研究者や郷土史家らで構成される竹田遺跡発掘調査団を編成し、発掘調査を実施しました。調査は昭和五十一（一九七六）年まで続けられ、縄文時代から弥生時代までの遺構・遺物が見られました。

竹田遺跡の発掘は大きな成果を挙げましたが、その中でも特筆すべきは、竹田縄文遺跡と言われる縄文時代の遺構・遺物です。調査開始の翌年、昭和四十八年八月に発見された竹田縄文遺跡は、今から約八〇〇〇年前、縄文時代早期中葉の遺跡です。発掘調査によって多数の杭穴、火を焚いた跡、穴などの遺構が確認されました。たくさん見つかった杭穴の一部は、つなげていくと二重の楕円形の輪になる箇所があり、これは住居の跡で、杭穴は住居の柱になる杭を立てた穴であると推定されました（写真1）。

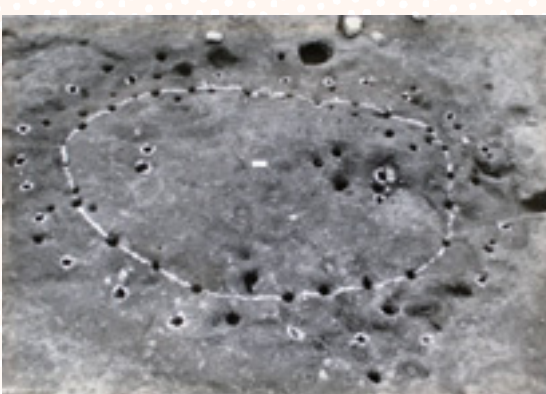


写真1 竹田縄文遺跡の住居跡

では六か所確認されています。杭を巡らせて作られた住居は復元すると図1のような住居になると考えられます。また、住居跡の杭穴の他にも多数の杭穴が確認されていますので、何回か建て替えられた住居が存在していたようです。

遺物は土器の破片が一六五点と石器が出土しました。土器は厚手で表面には「押型文」という木の枝などを土器の表面に押しつけて模様が施されたこの時期独特の土器で、土器の特徴から二時期に分類されます。

このことから、ここでは別の時期に少なくとも二回にわたって縄文人が生活を営んだと理解できます。



図1 住居跡の復元予想図

（石器は安山岩（サヌカイト）や黒曜石で作られた石鏃（やじり）や搔器（ナイフ）などが見つかり、石くずもあったことから石器製作をこの場所で行っていたことがわかります。このような、縄文時代でも古い時代にあたる早期の住居跡が発見されたのは、西日本では極めて貴重な発見であるということに注目されました。特に周りに杭を巡らせるという形式の住居跡は中国地方では津山市大田西奥田遺跡と竹田縄文遺跡でしか確認されていませんので、現在においても西日本の縄文時代研究において欠かせない遺跡の一つとされています。

発掘調査後、竹田縄文遺跡は北側の一部を現地に保存し、破壊される

南側の住居跡を地面ごと切り取り、樹脂で固め保存することになりました。これは地域の貴重な文化財を何とか後世に残したという



写真2 切り取り保存された住居跡

地域の人々や研究団体・調査団員らの熱意によって実現したものです。今年は調査開始から四〇周年を迎えますが、こうした皆さんの努力を受け継ぎ、町の歴史や文化財を大切にす意識を持つことが誇りを持てるまちづくり実現への第一歩となるのではないのでしょうか。

切り取り保存した住居跡は、中央公民館前の旧歴史資料館前に展示しています（写真2）。出土遺物は郷土博物館（ペスタロッツチ館二階）に展示しています（入館料無料）

参考資料：『鏡野町史』考古資料編・通史編、『美作の歴史』、『竹田墳墓群』

お問い合わせ先

生涯学習課 田下

電話（0868）54-77363